古今類句

有

新勅撰上
新勅撰一
後古巻一
後千載雜下
新葉春上
玉葉巻三
夕顔
新古巻四
金葉秋
壬生二荒上
漂漂
金葉巻
新千巻
新勅撰二
千載巻一
後古雜下

内閣文庫

内閣文庫

新勅撰一　月清集上　拾遺愚草上　長秋詠藻下　壬生二位上　同　金葉冬　壬生二位上　千載冬　新古冬　新拾冬　拾玉集六　同　壬生二位上　山家集上　続古歌一　千載歌一　新後拾冬

日のはるかに見えしかの海の水の
あ暗のうへに月ぞ澄みける
庭のもみぢ葉ぬ霜のなごり紙
あらしや雪はきのへの三鹿
あ暗なるこの雪やそらふる
はるかに月ぞ澄みける
ものもはりゆんけ
ぬれてもはりゆんけ
水ぞ凍きぬ
ふるのたきぬ
千載の池乃水
あ暗のそらふる
月はのあ
さやけの月の水
沖津風
月のうへ
我袖やはつ
なるよ
清澄や岩
うらもよ
うらもよ
うらもよ

新古今春上　一なれはこそ花の名をも惜まれむ　右大臣
拾玉集四　海ちかく人けんのゆくすゑをこそ　家隆卿
新古今二　ながめやるのちの世にもなりぬべし　
拾遺抄三　ちるもみちすなるをもてはかるかな　僧正遍昭
拾玉集四　れてるひのもとにかはるかとみるまで　
俊撰歌中　つるの神やあはれとをもふらん　
古今春下　山吹はあやなくさきそ恨めしき　
同哀傷　色も香も昔のままにみえつれど　
風雅哀　池水は風をなかせるなりけりと　
拾遺抄下　ながめやるのちの世にもなりぬべし　
後撰拾遺三　しるしせん命もなにかはるかとみる　
後撰哀　山川の岩にせかるる春の水　
俊撰歌中　うゑしをりにもあらぬ春の日の　
新葉賀　千年をかけてとかくる氷にて　
同秋上　うきぬ秋の風の宿りとなるかな　
同雜中　ちるもみちすなるをもてはかるかな　
俊撰歌中　自ひとりきて花のもとにたつ風　
拾遺抄上　一ちるもみちすなるをもてはかるかな　

新古今雜下　岩陰なるそこにかくれてみまきの霧　大納言綱光
拾遺抄草上　うらみはてしのとにさかりなる花　
拾遺抄上　あるかなきかの色にうつろひて　
後撰拾遺抄　雲ぬきうつりみなとこまてよもむ月　
新勅雜二　雲ぬきうつりみなとこまてよもむ月　
新葉雜上　いつのまにかはるかとみるまで　
後撰拾遺抄　いつのまにかはるかとみるまで　
後撰歌中　うゑしをりにもあらぬ春の日の　
拾遺抄草上　うゑしをりにもあらぬ春の日の　
拾遺抄三　うゑしをりにもあらぬ春の日の　
新古今秋下　うゑしをりにもあらぬ春の日の　
拾遺抄上　うゑしをりにもあらぬ春の日の　
後撰拾遺抄　うゑしをりにもあらぬ春の日の　
玉葉哀三　うゑしをりにもあらぬ春の日の　
新勅雜四　いつのまにかはるかとみるまで　
大和物語　ゆゑしらぬ物なりけるかなとて　
拾玉集六　谷のそこにもかくれてはなれて　
新葉哀三　花のかげにかくれてはなれて　
山家集上　ちるもみちすなるをもてはかるかな　

法橋寺院
相模
冷泉院
赤人
賈之
能因法師
俊三位
さうゑん

新古今拾雜秋　一首もとめ侍りし歌　遊女の

新古今上　とめまうで侍りしあらしの山を

壬生二条下　春の日の霞のひまの山のをの

拾遺愚草上　うす野山ずまのぬるれ谷水を

新葉春上　風さえ渡る池の氷をとめてそ

月清集上　たゆる波のさそふ山川の

拾遺愚草上　うもと氷のもとのあくるの

壬生二条中　吉野川岩波ゆくれば春の

古今上　谷風にとけそめにける春の初花

新千冬　池のうす氷とけそめにけり

壬生二条上　入月の氷の上ゆくかれるかな

新拾春上　さえ渡る春の雪の谷の

後古今一　伊勢の海の海人の塩焼の

拾遺秋上　ひさかたの月の桂の

新古今　春の人の形代とて流

月清集上　雪の下の白波の

拾遺愚草下　天の川の月の舟の

拾玉集六　浦世の波の

西行法師

源宗于朝臣

同

白太后宮大夫俊成

月清集上　秋の山の月の

新古今雜上　ながめ

拾遺愚草三　ながめ

新千雜上　ながめ

新拾雜上　ながめ

新葉雜三　ながめ

新勅撰雜　うき雲の風の

拾遺愚草上　秋の山の月の

新古今雜上　ながめ

拾遺愚草三　ながめ

月清集上　ながめ

新古今雜中　ながめ

新拾雜上　ながめ

新葉雜三　ながめ

新勅撰雜　うき雲の風の

拾遺愚草上　ながめ

新古今雜上　ながめ

月清集上　ながめ

新古今雜中　ながめ

新拾雜上　ながめ

新葉雜三　ながめ

新勅撰雜　うき雲の風の

俊成法師

祖月法師

花山院御製

藤式部

伊勢大輔

四大夫

家隆卿

後二位藤原為家

新古今二　[illegible]　うちぬるうらびの秋の夕ぎり　式子内親王
拾玉集二　[illegible]　うちぬる神代もとりもかは
玉葉三　[illegible]　うちぬるをふかの山のこのは　西大納言家隆
拾遺愚草上　[illegible]　うちぬるやとのこのまのつき
新勅撰三　[illegible]　うちぬるまくらのうへのかぜ　前関白
拾遺愚草上　[illegible]　うちぬる春のひとをみる
月清集上　[illegible]　うちぬるまくらさめぬ白雪
壬生二条上　[illegible]　うちぬるうへも波よるく
新後拾遺三　[illegible]　うちぬるひまもうやうやしく　権大納言実量
新拾遺一　[illegible]　うちぬるはの秋もつりハ　中務大輔宗宣
新後拾遺二　[illegible]　うちぬるひまもるさ[illegible]　静仏法親王
月清集上　[illegible]　うち[illegible]　和泉式部
壬生二条中　[illegible]　うちつけ[illegible]　[illegible]
拾遺愚草　[illegible]　うちつけの秋の月　[illegible]
拾遺愚草　[illegible]　うちつけのせてのうすのひかり　[illegible]
拾玉集二　[illegible]　[illegible]

拾遺愚草　[illegible]　うちたれこのさみだれの　[illegible]
新千載下　[illegible]　うちたれかこの秋の雨　弁内侍
後千載一　[illegible]　うちつけのうらめて雨の　前右大臣
拾遺愚草　[illegible]　うちつけの秋の月風
拾玉集上　[illegible]　うちつけのうらの秋の月
同一　[illegible]　うちつけのうらの秋の月
同上　[illegible]　うちつけのうらの秋の月
月清集下　[illegible]　うちつけの秋の月風
拾玉集上　[illegible]　うちつけの秋の月風
新葉三　[illegible]　うちつけの秋の月風
壬生二条下　[illegible]　うちつけの秋の月風　坂上郎澄
後撰羇旅　[illegible]　うちつけの秋の月風
拾玉集二　[illegible]　うちつけの秋の月風
同拾雑下　[illegible]　うちつけの秋の月風
新拾雑中　[illegible]　うちつけの秋の月風　大江以言
後拾　[illegible]　うちつけの秋の月風　藤式部
拾玉集上　[illegible]　うちつけの秋の月風　宗家
同二　[illegible]　うちつけの秋の月風

玉葉秋下　紅葉ちる山の雲ゑの　うつろはぬ
張千秋下　尾花ちる　かり　雁　秋の　はつ　雁　なき　秋の　はつ　雁　なき　秋の　はつ　雁　なき

後撰六百
拾遺貞登
新葉雜上
新千雜中
後撰新別
後撰雜四
玉葉雜二
後撰拾遺
後撰雜三
後撰雜四
後撰雜三
後撰拾遺
新千雜四
後撰雜四
後撰雜三
後撰雜四
後撰雜四
後撰雜四

拾遺雲隠中
狭衣四
拾遺雲隠
後撰恋一
核桂
壬生二条下
拾玉集四
風雜
後拾遺雜
古今雑体
新勅撰名
千載冬
拾遺負恋
新後
後千載恋
拾遺負恋
新後
後千載恋
大和物語
新千恋一
新古恋四
乙女
拾玉集三
後拾遺雜
後拾恋三
後千恋二
壬生二条中
新勅雜一
新葉賀
千載恋四

いつ河のせゝ波はやくさすがに乃
うゝあてゝ袖をぬるゝものゝこゝ
いはせもとゝ思ぬるものゝこゝ
いまゝでゝ口なれぬ川の名ゝ川
思ひ川年もとるゝ水の底の
ちるあすの朝の雪よ袖ぬれて
消ぬゝみなと濡れ濡はまを
法の師よ仏のゝをしむ
秋ゝ月も月をなるゝまゝ
思ふもとゝ思ふ思ひぬ袖を
花とみゝくゝ人とゝ八女郎
風さむゝなゝ春ゝ
春ゝ秋ゝ秋の春ゝ
雜てゝ春ゝ
常ゝ秋ゝ
後ゝ秋ゝ
人生ぬゝ
むなゝ乃
みゝ月乃月ゝ
新葉雜上
壬生二条上

ちゝとゝてあゝ人ゝ
拾遺雜
後古春傷
新葉雜上
後拾遺雜
大和物語
新後恋一
新古恋四
乙女
拾玉集三
後拾遺雜
後拾恋三
後千恋二
壬生二条中
新勅雜一
新葉賀
千載恋四

ちゝとゝてあゝ人ゝ
むなゝ乃
ゝゝ月ゝ
花ゝ月ゝ
ゝゝ月ゝ
ゝゝ月ゝ
ゝ

拾遺雑上　久方の雲のかよひ路吹とぢよ　をとめの姿しばしとゞめむ　僧正遍昭

同　あかなくに日かげかくすな山の端の月　惟喬親王

玉葉雑上　ちはやぶる神のいがきの内までは人の通はぬ道とかは知る　伊勢大神宮

風雅雑上　なにしおはゞ花の名にこそ咲かまほしみよしの山の春の白雪　後二条院

新葉雑上　もゝしきの大内山の桜花　雲かと見えて匂ふ春かな　後恵法師

拾玉集二　夕されば雲の衣を脱ぎ捨てて　月の袖にぞ秋風の吹　文覚

新勅撰　あはれとも思ひ入れぬ人の心　なぐさめかねて月ぞ恨むる　後鳥羽院

玉葉雑下　あはれとも思ひ入れぬ人の心　なぐさめかねて月ぞ恨むる　後鳥羽院

拾玉集一　山ぢ人の入れぬ人の心　なぐさめかねて月ぞ恨むる　後鳥羽院

同　又　なぐさめかねて月ぞ恨むる　後鳥羽院

風雅雑下　ますらをの心の内は知らねども　なぐさめかねて月ぞ恨むる　後鳥羽院

新葉雑下　ますらをの心の内は知らねども　なぐさめかねて月ぞ恨むる　後鳥羽院

風雅雑下　ますらをの心の内は知らねども　なぐさめかねて月ぞ恨むる　後鳥羽院

壬生二首上　いつしかと春の来ぬれば今日ぞ　ながめ暮しぬ春の山ぢ　後鳥羽院

風雅雑上　いつしかと春の来ぬれば今日ぞ　ながめ暮しぬ春の山ぢ　後鳥羽院

拾玉集四　冬ごもり池の氷の下にぬる　わかなを春の雪の下にぬる　後鳥羽院

同　冬ごもり池の氷の下にぬる　わかなを春の雪の下にぬる　後鳥羽院

山家集上　春ぬれば今日待つけて七夕の　あひ見てたちぬるうきを忘れ　後鳥羽院

同　春ぬれば今日待つけて七夕の　あひ見てたちぬるうきを忘れ　後鳥羽院

同下　波よせぬ浦のあり明の月　ながめ見ぬ人の心ぞ　後鳥羽院

拾遺雑賀　春の来ぬ行くとつ鳥の鳴くなれば　ながめ見ぬ人の心ぞ　後鳥羽院

風雅雑下　ながめ見ぬ人の心ぞ　後鳥羽院

長秋詠藻上　あひ見ても春の夜ぞ　後鳥羽院

拾玉集又　沖もきけ打ちあぐる　後鳥羽院

拾遺雑賀　君を思ふ今日の心ぞ　後鳥羽院

同　君を思ふ今日の心ぞ　後鳥羽院

同　君を思ふ今日の心ぞ　後鳥羽院

同

撰玉集六
後撰哀二
同哀又
玉葉詞紙
後拾哀三
同哀下
後撰秋下
金葉哀上
同哀哀上
新後哀又
風雅春下
壬生二条上
拾遺恋後
後拾遺秋下
拾遺雜秋
新勅秋上

拾玉集四
新後古哀又
新拾哀四
玉葉秋下
後拾秋上
古今哀下
拾遺雜秋
後拾遺秋下
同秋秋
新古冬
後千秋下
拾玉集一
新拾哀四
新勅秋下
後古秋下

拾遺秋上　秋萩はうつろふ時もあれど庵の内
壬生二首上　吉野川岩こしなれて行波の
同下　うつるもみつるの思ひ
古今春下　梅ばなのかをとまきてこれい
新後春下　ふるもとつ雲乃行ゑ
新勅春下　春風の月もさゆる夜
拾遺雲隠　山乃とうすこそあるこのあ
源雅春上　嶋みとうとの紅のうすのそ
仙河　風よりとこそ八よのつ桜ちる
新葉春下　今ちやいつ乃ふり乃春を
新古春下　いつゝのせんせのつなる梁の月
後鳥羽春下　雪とのこ塔とこ海ゝれ山さと
新葉春下　まつさうぬ桜ゝ乃出てとゝ
新後雑下　ゝ乃ゝ元ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
後拾遺秋上　霧ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
拾玉集六　ゝりうゝてみゝゝゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
拾遺雲下　白菊乃ねも一すゝの乃ゝ乃ゝ
新後古秋下　ゝ秋よゝゝゝゝゝゝゝゝ

大江千能雲雀
花月雲雀
春夜雅理
坂上是則
冷泉今上天皇
太上天皇
藤大納言氏
中院入道一品
後一位家隆
土御門院小宰相
源宗于朝臣
小宰相

総角　屋ま姫のそむ
新後古雲　紅ゝ乃桜ゝ
古今秋下　秋ゝ乃ゝ乃ゝ
拾遺雲　さゝ乃ゝ乃ゝ
新古雲下　ゝ乃ゝ乃ゝ
拾遺雲至　ゝ乃ゝ乃ゝ
新拾秋上　ゝ乃ゝ乃ゝ
拾遺雲下　むゝ乃ゝ乃ゝ
壬生二首中　ゝ乃ゝ乃ゝ
新拾雲下　ゝ乃ゝ乃ゝ
新拾秋上　秋ゝ乃ゝ乃ゝ
拾遺夏下　あゝ乃ゝ乃ゝ
千載拾雲下　数冬の花乃ゝ
壬生二首上　四ゝの庵や河の花乃ゝ
拾遺雲下　花乃ゝ乃ゝ乃ゝ
新後古雲下　たゝ乃ゝ乃ゝ
山葉秋上　さゝ乃ゝ乃ゝ

屋姫今上
平さうん
清宇四道
清宇兄弟
源邦長朝臣
沙弥長朝
藤原俊成
藤岡四条隆

新拾雑上　久方の月の桂の秋風に　うつろふ山の紅葉　中務卿具平親王
新千載上　ながめてのこる山のもみぢ　うつろふ花の色も　後二條院
後拾遺上　ながめやる人の心を　花の色に　藤原俊成
新葉秋上　ながめてのこる山のもみぢ　うつろふ花の色も　藤原為家卿
新千載上　ながめてのこる山のもみぢ　うつろふ花の色も　後二條院
月清集上　ながめてのこる山のもみぢ　うつろふ花の色も　慈円
玉葉秋上　秋の色のなかめ　後鳥羽院
後拾遺冬　ながめてのこる山のもみぢ　うつろふ花の色も　中務卿具平親王
新後拾遺上　ながめてのこる山のもみぢ　うつろふ花の色も　後二條院
拾遺雑上　ながめてのこる山のもみぢ　うつろふ花の色も　後二條院
新後撰秋下　ながめてのこる山のもみぢ　うつろふ花の色も　後二條院
新後拾遺四　ながめてのこる山のもみぢ　うつろふ花の色も　後二條院
古今歌　ながめてのこる山のもみぢ　うつろふ花の色も　後二條院
新古雑下　ながめてのこる山のもみぢ　うつろふ花の色も　後二條院
新勅雑一　ながめてのこる山のもみぢ　うつろふ花の色も　後二條院
古今秋下　ながめてのこる山のもみぢ　うつろふ花の色も　後二條院
和歌秋　ながめてのこる山のもみぢ　うつろふ花の色も　後二條院
後拾遺秋下　ながめてのこる山のもみぢ　うつろふ花の色も　後二條院

新千載秋下　ながめてのこる山のもみぢ　うつろふ花の色も　後二條院
新後撰秋下　ながめてのこる山のもみぢ　うつろふ花の色も　後二條院
後拾遺秋下　ながめてのこる山のもみぢ　うつろふ花の色も　後二條院
新後拾遺秋下　ながめてのこる山のもみぢ　うつろふ花の色も　後二條院
新後拾遺秋下　ながめてのこる山のもみぢ　うつろふ花の色も　後二條院
同　ながめてのこる山のもみぢ　うつろふ花の色も　後二條院
拾遺恋五　見てのみや山の紅葉　うつろふ花の色も　後二條院
後拾遺秋下　かりのこる山の紅葉　うつろふ花の色も　後二條院
後撰恋一　あるかなきかの山の紅葉　うつろふ花の色も　後二條院
金葉恋三　春ごとに咲くとは知らぬ　うつろふ花の色も　後二條院
大和物語　花の色の　うつろふ花の色も　後二條院
長秋詠藻　紅葉の色の　うつろふ花の色も　後二條院
新拾遺恋　紅葉の色の　うつろふ花の色も　後二條院
後撰雑中　紅葉の色の　うつろふ花の色も　後二條院
拾遺雑秋　紅葉の色の　うつろふ花の色も　後二條院
壬生二首上　さくらの花の　うつろふ花の色も　後二條院
後拾遺秋下　今日の月の　うつろふ花の色も　後二條院
壬生二首上　つくづくと　うつろふ花の色も　後二條院
拾遺恋五　つくづくと　うつろふ花の色も　後二條院

壬生三位上
玉葉春下
古今雜上
新後拾遺春下
拾遺愚草
拾遺夏外下
古今秋上
後撰雜四
新後拾春下
新古今賀下
後千秋下
拾遺夏外
後拾雜上
後撰雜中
新拾遺秋上
後拾遺三
風雅秋上
新勅撰下
風雅雜中
後拾秋上
新後拾下
後拾雜上
風雅雜中
新後拾冬
後古今雜
風雅雜上
新後拾
後拾秋上
金葉雜上
新後拾
後拾秋上
新後拾冬
後拾雜上
風雅雜中
後拾秋上
後拾雜上
後拾秋上
後拾雜上
後拾秋上
後拾雜上

子載冬
月はさやかにてのこりなく
うつりあひたる
道因法師
後拾遺
千載冬
月はさやかにてのこりなく
うつりあひたる
春雅雅上
後拾遺
千載冬
月はさやかにてのこりなく
うつりあひたる
源師光
後拾遺
千載冬
月はさやかにてのこりなく
うつりあひたる
雲林院の僧正
後拾遺
千載冬
月はさやかにてのこりなく
うつりあひたる
和泉式部
後拾遺
千載冬
月はさやかにてのこりなく
うつりあひたる
侍従内侍
後拾遺
千載冬
月はさやかにてのこりなく
うつりあひたる
源実朝
後拾遺
千載冬
月はさやかにてのこりなく
うつりあひたる
藤原為家
後拾遺
千載冬
月はさやかにてのこりなく
うつりあひたる
後鳥羽院
後拾遺
千載冬
月はさやかにてのこりなく
うつりあひたる

新拾遺下
後拾遺
拾遺百
同花雜下
後拾遺
拾玉集七
後拾遺雜
新古今
後拾遺二
後千雜下
壬生二本上
新葉雜
後千二
後千百三
古今物名
玉葉三
拾遺百三
新葉百四

金葉二本上
拾遺百四
拾玉集七
後拾遺三
新葉雜下
後撰百四
新古百三
後千百四
新後拾百三
壬生二本中
新後拾
拾遺百下
後千百
新葉百二
古今百三
後千百二
山家集上
後撰百傷

後撰恋四　海ちまあはうとそ思ふすとうつみもあはぬうらの浪　定家法師
新後撰恋四　義の世をうつもれつつもとれ　うつつもあるとも夢とも　侍従宗敦
新後拾恋三　まつ物なれの義をそ思ひ　うつせをうつむ逢ひ見れ　前左兵衛佐
新勅撰雑下　義をうつ　義は春の夢と思ふ　義は春の夢とそ
拾玉集六　義は春の夢とそ　うつつと義とをうつ　義は春の夢とそ
新勅撰恋四　なれ　義は春の夢とそ　うつつと義とをうつ　義は春の夢とそ
月清集下　はの世はあはすもし　義は春の夢とそ　義は春の夢とそ
同　あはのあき義はうつ　うつつあきうつ　義は春の夢とそ
後拾遺雑六　思ふれの心乃まうつ　義をうつ　義は春の夢とそ
玉葉雑四　義をうつ　うつつ　義は春の夢とそ
後拾遺雑下　義は春の夢とそ　うつつ　義は春の夢とそ
後拾遺恋三　うつつ　義は春の夢とそ　うつつ　義は春の夢とそ
新拾雑中　義をうつ　うつつ　義は春の夢とそ　義は春の夢とそ
拾玉集六　人とれぬ義は義をうつ　義は春の夢とそ　義は春の夢とそ
同二　思ひけ義はうつ　義は春の夢とそ　義は春の夢とそ
新拾恋四　うつつ世清のうつ　義は春の夢とそ　義は春の夢とそ
拾遺恋四　みる義はうつ　義は春の夢とそ　義は春の夢とそ
拾玉集一　義は春の夢とそ　うつつ　義は春の夢とそ　義は春の夢とそ

後撰恋四　あはとみてさめてうつつ　白玉の涙の露の　後鳥羽
同　さそ義をうつ　義は春の夢とそ　義は春の夢とそ　俊成
新後撰恋三　遊宴の義をうつ　義は春の夢とそ　義は春の夢とそ　俊成
古今集傷　義をうつ　義は春の夢とそ　義は春の夢とそ　俊成
拾遺恋傷　義をうつ　義は春の夢とそ　義は春の夢とそ　俊成
新後拾恋二　義をうつ　義は春の夢とそ　義は春の夢とそ　俊成
千載乃恋　義をうつ　義は春の夢とそ　義は春の夢とそ　俊成
拾遺恋五　義をうつ　義は春の夢とそ　義は春の夢とそ　俊成
拾玉集一　義をうつ　義は春の夢とそ　義は春の夢とそ　俊成
新後拾恋傷　義をうつ　義は春の夢とそ　義は春の夢とそ　俊成
玉葉雑六　義をうつ　義は春の夢とそ　義は春の夢とそ　俊成
後拾遺恋三　義をうつ　義は春の夢とそ　義は春の夢とそ　俊成
拾玉集七　義をうつ　義は春の夢とそ　義は春の夢とそ　俊成
後撰雑下　義をうつ　義は春の夢とそ　義は春の夢とそ　俊成
新後拾恋四　義をうつ　義は春の夢とそ　義は春の夢とそ　俊成
壬生二条上　義をうつ　義は春の夢とそ　義は春の夢とそ　俊成
新古今下　義をうつ　義は春の夢とそ　義は春の夢とそ　俊成
拾遺恋五　義をうつ　義は春の夢とそ　義は春の夢とそ　俊成

拾玉集二　夕風の秋のしるしとなりそめて世くうつる時しの人の心の

長秋詠藻上　ゆふ風の秋のしるしとなりそめて世くうつる時しの人の心の

後拾遺秋上　ゆふ風の秋のしるしとなりそめて世くうつる時しの人の心の

壬生三百上　君ちかくあれとうつる宿のあるじ　源時綱

拾玉集七　月をまつ人の心のうつるとて

長秋詠藻　袖の露ちりもあへぬ秋の夕風　中宮大夫

拾玉集四　みちのくの秋のしるしとなりそめて世くうつる時しの人の心の

拾遺雲上　袖の露ちりもあへぬ秋の夕風　中宮大夫

月清集下　野辺の秋の夕風　藤原俊成

拾玉集二　ゆふ雲のいとぬ宿のあるじ　藤原俊成

月清集下　ちりのこる木の葉の秋を　藤原俊成

新後拾遺秋　ちりのこる木の葉の秋を　藤原俊成

玉葉雲上三　ちりのこる木の葉の秋を　藤原俊成

壬生二百中　麻衣ぬりのこる木の葉の秋を　藤原俊成

大和物語　雲ぬるものなるよりの秋　藤原俊成

古今雜歌下　世をいとふ人のとまるを　藤原俊成

後拾遺秋下　うつろはぬ秋のあるじ　藤原俊成

金葉雲上　我こひかつもまさりにかつまさる人のあ

新後拾遺古冬　みつ世の秋もすもれ　藤原俊成

同賀　白ぬのゆきとうつる秋の里　藤原俊成

後拾遺雲上　うつる月をみて思ふ　藤原俊成

長秋詠藻上　さうぬ世をもすもれ　藤原俊成

拾玉集六　うつる月をみて思ふ　藤原俊成

長秋詠藻上　うつる月をみて思ふ　藤原俊成

後古冬　うつる月をみて思ふ　藤原俊成

拾玉集三　うつる月をみて思ふ　藤原俊成

長秋詠藻上　うつる月をみて思ふ　藤原俊成

後古冬　うつる月をみて思ふ　藤原俊成

拾玉集三　うつる月をみて思ふ　藤原俊成

金葉雲上　うつる月をみて思ふ　藤原俊成

拾玉集六　うつる月をみて思ふ　藤原俊成

古今雜歌下　うつる月をみて思ふ　藤原俊成

新後拾遺　うつる月をみて思ふ　藤原俊成

後拾遺雲上　うつる月をみて思ふ　藤原俊成

後古冬　うつる月をみて思ふ　藤原俊成

新葉秋下　うつる月をみて思ふ　藤原俊成

後拾賀　うつる月をみて思ふ　藤原俊成

拾玉集一　うつる月をみて思ふ　藤原俊成

風雅集上
題不知
同
新拾玉集
題不知
拾玉集七
新勅撰二
題不知
金葉雜下
拾遺愚草上
壬生三百中
新勅撰上
新葉雜中
風雅雜上
新勅撰
拾遺愚草上
幻
古今集傷

唐詩の山路の雪もしらずして
うつるこゑは人のなるらん
同人もまつと折しこそあさ人
雪おもの葉に今朝は降ぬ
乃ゆくき路をそとはれとこふ
ふるやとを梅の雪もはなとこふ
年ぬしてまつ春ぬ
わるふく苦はてはまてはひとく
ぬの袖の雪もうちはらはく
ものとしに苦はてはうちもて
ぬみをとをとろうるを
まつくきれ山はかくよ
波つりの雪はつけても我為世よ
いくはれ分はもなるぬとの
いつはせんとのまつるは大乃
松のうれみとはけを池水よ
開花も孫をるもひもてを
羽衣のうすきはるかはうは
ねてもうねてもはてはうは

桂中納言雄
康守圓助
藤原為相
基中納言有光
今上御製
芳園法師
中務卿宮
和泉式部
法眼芳離
中務卿宗良親王
俊成卿
桜家侍従資明
きのとものり

題不知
拾遺雜上
壬生三百中
風雅雜上
新拾雜上
題不知
拾遺愚草
題不知
新勅撰
拾遺雜上
題不知
新勅撰
拾玉集四
壬生二百下
俊頼卿
新拾雜上
多武峯

夏衣うすくやはらかなん
うつるはみれ移ふ袖の
拾玉集七
うつるはあとはあ海ふ
うつるはは人はあもうか
うつるはは秋は月新
うつるはかはは今もは
九重はあるはるは
波ふくまは風山の松はれ
うつるはは秋はあもはう
うつるはは秋はあもはう
一はるはるはは
わはれはは
あるはるはは
はるはは
はるはは
は

新拾遺秋上　なかれきりぎりすのこゑ　うもれかるる袖の露
長秋詠藻　まつ海はなれ秋は田ぶせもとゝ　うもれもとゝ雲ぞ
玉葉雜三　れかよる清のとゝ　うもれもとゝ秋の夕雲
拾遺愚草上　ろそよつゝとゝ　うもれもとゝ
長秋詠藻下　四方の海あまれ　うもれもとゝ
後拾遺秋下　雁波ゝ　うもれもとゝ
後拾遺雜三　ひきゝ　うもれもとゝ
風雅雜下　ま　うもれもとゝ
拾玉集二　さ　うもれもとゝ
壬生二品中　る　うもれもとゝ
拾玉集五　君　うもれもとゝ
山家集下　次風　うもれもとゝ
後拾遺雜三　ぬ　うもれもとゝ
拾玉集四　妹　うもれもとゝ
後撰秋下　き　うもれもとゝ
新後拾遺秋下　初霜　うもれもとゝ
拾玉集三　位　うもれもとゝ
壬生二品下　白露　うもれもとゝ

右京兆相國下
拾遺愚草
拾玉集
慶三位家隆
右京兆大夫
建礼門院
後二位家隆
右京兆
拾遺愚草

後拾遺秋下　初霜のふるとしもなのまつ次第　うもれてのこるかつる秋の
新古今秋下　ふるとしの風ふるとしの神よ　うもれてゆく時人の秋ぞ
後拾遺雜秋下　きりぎりすなくなる秋の夕ぶ　うもれてゆく秋の夕風
新葉秋上　ま　うもれてゆく人の秋風
後拾遺雜三　あ　うもれてゆく
後撰秋下　小秋の夜　うもれてゆく
新千載秋上　妻こふる　うもれてゆく
拾玉集一　かり衣　うもれてゆく
玉葉雜二　ゆ　うもれてゆく
新拾遺秋　鳴海　うもれてゆく
拾玉集一　秋　うもれてゆく
山家集下　波　うもれてゆく
新葉秋上　波の　うもれてゆく
新千載秋下　月　うもれてゆく
拾遺愚草中　ち　うもれてゆく
新勅撰秋上　海　うもれてゆく
壬生二品下　百　うもれてゆく
拾遺愚草中　世　うもれてゆく

前右大臣
後鳥羽院御製
大納言
藤原教雅卿
皇太后宮大夫俊成
権大納言実雅
清輝朝臣
藤原定家
藤原公経
藤原家隆
藤原定家
藤原定家
藤原定家

狩衣一
後拾遺雜二
後拾遺雜上
後拾遺雜上
後拾遺雜上

風雅八三
新後撰哀四
新後拾哀
玉葉哀
同
後拾遠哀二
新拾哀
新後拾哀
拾玉集四
新古秋上
新千哀
壬生二示上
新後哀六
後後拾哀三
新葉哀
風雅哀三
後撰哀二
後後哀

さまでうもんとてもとめたりあとをうらはらにあはれをとつそうもりのの野べもあれうもりのあるくさめも
ゆくえもあるこの世をはかなかりしあはれ
今よりそ君をあつくもちぬさうもりのかはらのかんとてあつくみすもなりかりしうもりのやつかふるうんうもりのかはらのかんとてあつくみすもなりかりしうもりのやつかふるうん
秋乃夕の那ちうもりのあるとの葛原うもりのせのあるとの葛原
焼乃雲も浸もとくまりて
生海の海ちに焼衣をれよりもうもりのせのあるとの葛原
うもりゆくんの雲れ雲ちるやうもりのせのあるとの葛原
ちるもの思ひもそなれ我ものうもりのせのあるとの葛原
多のめねこあるめくとうもりのせのあるとの葛原
今つくやあれをうもりのせのあるとの葛原
うもりのせのあるとの葛原
うもりのせのあるとの葛原
う

新勅撰雑四　和泉式部
雲井よりそちらに中ハ七夕を
拾遺恋三　ちぎりすもあくるをまちてなかぬなり
同　あれはてぬ夏の草ぶかき宿の
山家集上　つまこひて人かよはぬ庵の秋
千載恋三　引ぬ手を人のつれなく
拾遺恋二　侘ぬれはいつはゆしきたかなる
同　天ハ
千載恋二　ありあけの月の
同　かりそめにうきたちやすらふ
新勅撰雑一　同
拾遺恋五上　今日すぎ野へ乃ハ
拾遺雑一　をちもまたかの
新千載恋　うきよをとはの
伊勢物語　いとゝ
拾遺雑春　いとゝ
拾遺冬　ちりぬるの
新千載恋　ふるほとも
　　ちりぬるの
　　ちりぬるの
　　ちりぬるの

後撰 四
新古秋上
後撰 後撰 後
拾遺 冬
古今 六帖
同清集下
千載 三
新千 秋上
古今 哀傷
拾玉集二
後拾遺 雜
新後撰 冬上
新葉 秋上
新拾 雜下
拾玉集四
新葉 雜
後千

我もおなじ世のやむ時もあり
ぬらしこのみを
うゝめくせのやむ時もあり
うゝまきつゝ正秋の暮ぬる
中納言家隆
弁なしみゝむろの山の暮ぬる
うゝまきつゝ正秋の暮ぬる
西行法師
山里はいつも秋とは思へども
うゝまきつゝ正秋の暮ぬる
後鳥羽院
弁若月は秋の暮ぬるとも
うゝまきつゝ正秋の暮ぬる
みるものゝ心にくもれと
うゝまきつゝ正秋の暮ぬる
袁つゝ
月の秋の雲なくとも
うゝまきつゝ正秋の暮ぬる
ありしかの雲にはとゝ
うゝまきつゝ正秋の暮ぬる
後二位殿
かゝる袁つゝ
うゝまきつゝ正秋の暮ぬる
かゝる袁つゝ
うゝまきつゝ正秋の暮ぬる
後鳥羽院
君まさて
うゝまきつゝ正秋の暮ぬる
つゝゆき
古今 哀傷
とゝ
うゝまきつゝ正秋の暮ぬる
大中臣能宣朝臣
小鹿
うゝまきつゝ正秋の暮ぬる
山里
源俊頼朝臣
はゝ
うゝまきつゝ正秋の暮ぬる
中納言家良卿
ゆゝ
うゝまきつゝ正秋の暮ぬる
後一条入道太政大臣
秋
うゝまきつゝ正秋の暮ぬる
光明峯寺入道前関白太政大臣
山風の
うゝまきつゝ正秋の暮ぬる
つゝ袁扇は
うゝまきつゝ正秋の暮ぬる
拾玉集四
山
うゝまきつゝ正秋の暮ぬる
新葉 雜
後千
うゝまきつゝ正秋の暮ぬる
後千
袁
うゝまきつゝ正秋の暮ぬる
前四の山
うゝまきつゝ正秋の暮ぬる
袁

古今 秋上
後撰 後拾遺
玉葉 雜
同 冬
後撰 拾遺 冬三
後撰 拾遺 冬四
千載 袁四
新拾 袁
拾玉集一
山家集上
千載 袁
拾玉集六
新後撰 袁
同 袁二
拾玉集四
同 三
後千 袁
新後撰 拾遺上
拾玉集 袁

うゝまつゝ袁の
うゝまつゝ袁の
うゝまつゝ袁の

[illegible]

[illegible]

[illegible]

拾遺雑恋　いそのかみふるのなかみち　ふるさとの　はるのにはかは　ゆきのしたもえ　うつりにけるかな　よみ人しらず

新古拾遺　ことのはもたえぬるものを　あきのくれ　ふるのやしろの　ゆふしでかな　大中臣清直

続後古恋　ゆふしでの　ながれてとまる　みなとかは　ふるのやしろの　なつのあきかぜ　藤原国房

続後拾遺上　ふるのやしろ　ゆきをあさみ　ゆふしでの　ながれてとまる　みなとかは　なつのあきかぜ　右京大夫藤原為定

長秋詠藻下　ゆきをもかぶる　ゆふしでの　ながれてとまる　みなとかは　なつのあきかぜ　藤原為家

拾遺愚草上　ゆふしでの　ながれてとまる　みなとかは　なつのあきかぜ　藤原為家

玉葉恋四　つれなくて　ながれてとまる　みなとかは　なつのあきかぜ　藤原為家

拾遺恋五　ながれてとまる　みなとかは　なつのあきかぜ　藤原為家

新後拾遺恋五　ながれてとまる　みなとかは　なつのあきかぜ　後三條院御製

玉葉恋五　ながれてとまる　みなとかは　なつのあきかぜ　相模

続後撰上　ながれてとまる　みなとかは　なつのあきかぜ　清原元輔

新千載上　ながれてとまる　みなとかは　なつのあきかぜ　後鳥羽院御製

新古今秋上　ながれてとまる　みなとかは　なつのあきかぜ　太皇太后宮大夫俊成

新後拾遺三　ながれてとまる　みなとかは　なつのあきかぜ　多々良義綱

月清集上　ながれてとまる　みなとかは　なつのあきかぜ　祝部成国

新千載恋一　ながれてとまる　みなとかは　なつのあきかぜ

拾遺貞恋上　ながれてとまる　みなとかは　なつのあきかぜ

月清集上　ながれてとまる　みなとかは　なつのあきかぜ

山家集下　ながれてとまる　みなとかは　なつのあきかぜ　平宗宣卿

新千載雑中　ながれてとまる　みなとかは　なつのあきかぜ　[illegible]

拾遺恋五　ながれてとまる　みなとかは　なつのあきかぜ

大和物語　ながれてとまる　みなとかは　なつのあきかぜ　小野小町

古今恋五　ながれてとまる　みなとかは　なつのあきかぜ　在原行平

千載恋一　ながれてとまる　みなとかは　なつのあきかぜ

山家集　ながれてとまる　みなとかは　なつのあきかぜ

風雅恋三　ながれてとまる　みなとかは　なつのあきかぜ　永福門院

大和物語　ながれてとまる　みなとかは　なつのあきかぜ

玉葉恋五　ながれてとまる　みなとかは　なつのあきかぜ　後鳥羽院御製

風雅恋三　ながれてとまる　みなとかは　なつのあきかぜ　[illegible]

山家集上　ながれてとまる　みなとかは　なつのあきかぜ　平親隆女

風雅雑上　ながれてとまる　みなとかは　なつのあきかぜ　伏見院御製

続後拾遺下　ながれてとまる　みなとかは　なつのあきかぜ

山家集　ながれてとまる　みなとかは　なつのあきかぜ

拾遺恋五　ながれてとまる　みなとかは　なつのあきかぜ

新古今恋五　ながれてとまる　みなとかは　なつのあきかぜ　[illegible]

大和物語　ながれてとまる　みなとかは　なつのあきかぜ　[illegible]

狩衣二
風雅巻三
千載巻三
拾玉集一
後拾遺巻上
新葉巻六
新古巻六
同巻三
後千巻六
新勅巻三
続拾遺巻四
後撰巻上
新拾巻五
同巻上
古今巻三
新古秋下

あかつきの秋のこゑこそ海
つしとも聞くらんなこそ山びこせく
たやまぢ分ぬ夕ぎりの秋
のあさぼらけ
天の河わたせるはしの
大ぬきの板ぶきの屋根
ちぢにかさなる
ものおもふ
ものおもふ
ものおもふ

張子房　つぐ雪ふる清水のもすがら　衣笠内大臣
張貞観政要三　なつかしき人ぞ恋しき　家隆卿
新後撰恋三　ながめ暮す春の日ぐらしの　後二條院御
玉生二条下　大ゆとの松ばしりの夕雲　中務卿親王
張後拾遺雜　松ちる雪高き嶺の秋風　宗尊親王
新拾遺恋　ちりぬるかよりはいろとり　藤原為家
千載恋　なきこんをかりの出て　藤原為家
新後撰恋　なつかしく　藤原為家
張後撰恋二　ながめ暮す　清原宣賢
新千載上　ちりぬるかよりはいろとり　右大臣
新後撰恋五　なつかしき人ぞ恋しき　中務卿親王
張後撰恋二　ながめ暮す　宗尊親王
新拾雜上　ちりぬるかよりはいろとり　藤原為家

新千載雜中　あけぬるかこの秋の月　藤原為家
張古春上　みやこ人ぞ恋しき　右大臣
山家集上　月ぞ澄きて　
後撰雜一　あけて　
新千載雜上　清水のそこ　中務
金葉雜上　うらみもつらし　弘法師
拾遺貞雜上　うらみもつらし　長濃
張古夏　見しの面　
新千載　
拾玉集七　
新後撰　
拾玉集四　
月清集上　
同下　
玉葉
新葉
月清集下　
同

新古今
壬生二郎上
拾遺愚
同

長秋詠藻中
壬生二郎上
拾遺愚上
月清集上
強古雜中
山家集下
新古今一
同新古雜上
拾玉集
新拾遺雜
古今物名
拾玉集七
古今春上
玉葉集上

風雅集上
同雜上
新古今雜上
同集上
月清集上
拾玉集四
同
拾遺愚上
壬生二郎中
古今春上
拾玉集二
拾遺愚上
拾遺愚上
拾玉集六
後撰集一
同
壬生二郎上
新古今雜

同

新古今雜中　玉葉巻四

新拾遺二　新千載中　玉葉巻三

後拾遺巻三　新後拾遺巻三

新拾遺巻三　玉葉巻四

後拾遺巻三　新千載中

新拾遺巻四　玉葉巻四

後拾遺巻上　後撰雜中

後拾遺巻四　新葉雜下

新後拾遺巻四　千載雜中

金葉巻二　後拾遺雜中

山家集下

同

新古今雜中　玉葉巻四

新拾遺二　新千載中

玉葉巻三　後拾遺巻三

新千載中　玉葉巻四

後拾遺巻三　新拾遺巻三

玉葉巻四　後拾遺巻上

後撰雜中　新後拾遺巻四

新葉雜下　新後拾遺巻四

千載雜中　金葉巻二

後拾遺雜中　山家集下

後古雜上　源重之女
新後撰雜上　源時清
後撰雜三　源時清
後拾遺雜秋　法師祐助
後古今雜上　平時村朝臣
後拾遺雜中　丹後守長経朝臣
新後撰雜中　前大僧正慈円
後古今雜上　八條院高倉
新後撰雜三　後鳥羽院
玉葉雜二　後鳥羽院
同雜三　後鳥羽院
新後撰雜下　後鳥羽院
玉葉雜二　後鳥羽院
新後拾遺雜中　後鳥羽院
千載雜上　後鳥羽院
後古今雜上　後鳥羽院
同雜上　後鳥羽院
後拾遺雜秋　後鳥羽院
長秋詠藻　後鳥羽院
新後撰雜三　後鳥羽院
同　後鳥羽院
玉葉雜二　後鳥羽院
後撰雜三　後鳥羽院
同　後鳥羽院
同雜三　後鳥羽院
河内紀雜　後鳥羽院
後撰雜秋　後鳥羽院

山家集上　二条院讃岐
新葉雜上　二条院讃岐
後撰雜三　二条院讃岐
新後撰雜中　二条院讃岐
新葉雜二　二条院讃岐
同雜二　二条院讃岐
後拾遺雜三　心海上人
長秋詠藻　後鳥羽院
新後撰雜三　京極殿師実
同　後京極摂政
玉葉雜二　後京極摂政
後撰雜三　後京極摂政
同　後京極摂政
同雜三　後京極摂政
河内紀雜　後京極摂政
後撰雜秋　後京極摂政
後拾遺雜秋　後京極摂政
後古今雜上　後京極摂政
同雜上　後京極摂政
後撰雜秋　後京極摂政
後拾遺雜秋　後京極摂政

後撰雜中　よしの中をつくしやまかくすらん
新古卷二　なる世のうちとしてはてしなき
後撰雜中　世のうちとしてはてしなき
同卷一　なかるとも人にしられぬ
新葉卷　なかるとも人にしられぬ
拾玉集三　任吉の池のうへにくもりなく
後撰雜下　なるべしてはてしなき
新後撰雜中　世の人の数にもあらぬ
千載卷三　あはれ俗さるものとあるを
新古雜下　なるべしてはてしなき
新後撰雜中　何のつくしもあるべきなる
新古卷三　なるべしてはてしなき
新後撰卷三　なにはのうちとしてはてしなき
千載卷四　はるのうちとしてはてしなき
新葉雜下　なるべしてはてしなき
後撰拾遺卷三　はるのうちとしてはてしなき
新後拾雜上　なるべしてはてしなき
玉葉雜五　なるべしてはてしなき
後撰拾遺雜下　なるべしてはてしなき
同　なるべしてはてしなき

後撰雜中　七十九しのきの月日をすぎはて
拾玉集七　ありしかたのことのはまでも
後古雜中　あるべきかたのことのはまでも
後撰拾遺卷二　あるべきかたのことのはまでも
後千載卷二　あるべきかたのことのはまでも
玉葉卷二　あるべきかたのことのはまでも
後撰拾雜中　あるべきかたのことのはまでも
新後拾雜上　あるべきかたのことのはまでも
玉葉雜五　あるべきかたのことのはまでも
後撰拾遺雜下　あるべきかたのことのはまでも
同　あるべきかたのことのはまでも

後古雜下　あるべきかたのことのはまでも
玉葉卷二　あるべきかたのことのはまでも
新後拾卷二　あるべきかたのことのはまでも
新葉雜上　あるべきかたのことのはまでも
新後古卷二　あるべきかたのことのはまでも
千載雜下　あるべきかたのことのはまでも
新千卷三　あるべきかたのことのはまでも

後撰雜中　あるべきかたのことのはまでも
拾遺雜上　あるべきかたのことのはまでも
新後撰雜上　あるべきかたのことのはまでも
玉葉雜五　あるべきかたのことのはまでも
後撰拾遺雜下　あるべきかたのことのはまでも
同　あるべきかたのことのはまでも

後古雜下　あるべきかたのことのはまでも
玉葉卷二　あるべきかたのことのはまでも
新後拾卷二　あるべきかたのことのはまでも
新葉雜上　あるべきかたのことのはまでも
新後古卷二　あるべきかたのことのはまでも
千載雜下　あるべきかたのことのはまでも
新千卷三　あるべきかたのことのはまでも

後拾遺巻三　あられふるかやのしたにねてしかは
後撰拾遺巻三　くもりもなくあけのみかきに
後古巻三　ちりつもるかやのしたにねてしかは
新葉巻四　ことはまとをしらしらしかるなり
同　かやのしたにねてしかはあけのみかきに
新拾巻三　ちりつもるかやのしたにねてしかは
風雅雜下　いかなる事もみな夢
同　いかなる事もみな夢
後拾雜下　今はなくさもなきなかの
新後巻二　あちきなくいかなる事も夢
新後古雜中　ちりつもるかやのしたにねてしかは
同巻二　ちりつもるかやのしたにねてしかは
後拾雜下　定なきなかのしたにねてしかは
同巻二　思ひしらるるなかのしたにねてしかは
新後拾雜下　ちりつもるかやのしたにねてしかは
新葉雜下　ちりつもるかやのしたにねてしかは
玉葉巻五　恨てもひとりかやのしたにねてしかは
後拾雜中　我独かなしかるなかのしたにねてしかは

後拾巻六　さてもかくてもあるべきかなかのしたにねてしかは
新後拾巻三　逢まきてはなかのしたにねてしかは
新後巻二　ちりつもるかやのしたにねてしかは
玉葉巻三　ちりつもるかやのしたにねてしかは
後古雜上　ちりつもるかやのしたにねてしかは
新後古巻四　かくちりつもるかやのしたにねてしかは
玉葉雜一　ちりつもるかやのしたにねてしかは
後古雜中　ちりつもるかやのしたにねてしかは
後拾巻二　あはれかやのしたにねてしかは
拾遺抄雜春　引人のかやのしたにねてしかは
玉葉巻三　ちりつもるかやのしたにねてしかは
後拾巻二　ちりつもるかやのしたにねてしかは
新葉巻三　ちりつもるかやのしたにねてしかは
玉葉巻二　ちりつもるかやのしたにねてしかは
新拾巻二　ちりつもるかやのしたにねてしかは
新後巻三　ちりつもるかやのしたにねてしかは
新後拾雜上　ちりつもるかやのしたにねてしかは
後古巻六　ちりつもるかやのしたにねてしかは

後拾雑上　藤原長景
新後拾雑上　平直基
後千載　源沙製
新千載　常元法師
後拾遺　泰敏定理
千載　藤成法師
風雑三　従一位藤良安
拾遺雑恋　皇太后宮大夫俊成
新後拾雑下　前大納言為家
後拾雑中　藤原経子
新千載　大和内侍
大和物語　民部卿寂超
風雑三　惟宗忠景
後千載雑中　藤原為家
同秋下　藤原為家
新後拾雑下　藤原為家
後拾雑中　藤原為家
新千載　藤原為家

新後拾雑上　賀茂成助
後千載　源家氏
新千載　源家氏
拾遺恋　藤原
同上
同下
新勅撰　
後古今二　
新後撰二　
長秋詠藻　
後古今　
新後撰中　
後千載中　
新後拾雑　
玉葉恋　
新古雑下　
新後拾雑上　
後拾雑三　

新葉雜 四 ものゝ数にもあらぬ命とは
新後拾 世中よ何もつれなくなりにて
後古 三 ゆくへもしらぬ心なりけり
新後拾 四 たのまれぬ世にはなれぬ
拾遺 雜上 あれ海やみのはてにて
玉葉 雜 こゝろさびしくなるとしのくれ
後千 雜上 いとゝなりにてすぎにし
千載 雜 ものゝ数にもあらぬ
新後古 雜 ゆくへもしらぬ
後拾遺 雜 ものゝ数にもあらぬ
新後拾 雜上 世中よ何もつれなくなりにて
後拾遺 雜 ゆくへもしらぬ心なりけり
新後拾 雜下 たのまれぬ世にはなれぬ
風雅 四 ものゝ数にもあらぬ
新後拾 雜 ゆくへもしらぬ
新後拾 雜中 いつまでもつれなくなりにて
風雅 四 ものゝ数にもあらぬ
後古 雜 ゆくへもしらぬ
新後拾 雜 ものゝ数にもあらぬ
後拾遺 雜 ゆくへもしらぬ
新後拾 雜下 世中よ何もつれなくなりにて
後拾遺 雜 ゆくへもしらぬ
新後拾 雜 ものゝ数にもあらぬ
後古 雜下 ゆくへもしらぬ心なりけり

新後拾 雜 ものゝ数にもあらぬ命とは
後拾遺 雜 ゆくへもしらぬ心なりけり
新後拾 雜 ものゝ数にもあらぬ
後拾遺 雜 ゆくへもしらぬ

千載雜中　とこそさいはれをしてしかもかなしかるらん
續後撰雜下　海人のつりのやそをはなれて
拾玉集七　今年海ちかきなれば山賣の
續後撰雜中　かけうつをあはれとおもふ
同尺教　うしやまの麓とをきあしひき
同雜下　無風秋のしらつゆ
新後拾雜下　無の花秋のあるまにまにさけ
新古雜上　秋乃花の月のうつるかとみる
玉葉雜二　あるはてのいとをきさけてみる
新續古雜下　遠きて三のふきけの松風も
風雅雜下　ふるはなりかをみをかをの
續千雜上　ほりまさて入れ山乃月雲
續古雜下　ふむさきに雲のいとうつ
玉葉雜二　うしろ稀ふむきにそ
伊勢物語　ちれてそいとさしくめて
新千雜下　ちるへせもの乃ちもの
新後雜中　いとも行ちるる今ちう
續古雜下　ひまに新むへのはひを

新後拾雜　みちの乃ちはけ山乃樣
千載尺教　うしろ世よりてそ
同雜中　うしろ世よりまちこ
新勅雜一　求めてもかの玉の
新千雜上　ふるきうつ
新拾雜中　ものつ
新後雜下　ふるきうつ
續古尺教　つ月
千載尺教　ちこ
風雅尺教　法の
續千尺教　をつ
新後雜中　ちて
狭衣三
山家集
玉葉雜一
千載雜中
拾遺雜上

新古今 雲ゐよりなほ遠ざかる琴の音の
壬生二首上 ひさかたの雲の上なる琴の音の
新千 雲をゆくもしほの煙たちもの
拾玉集四 ながめてもなほ遠き海とうらぶれ
続後撰雜上 ながめやる雲の海のあなたより
新拾雜中 雲ちらしてまがふ雪の
大和物語 雲ちらしてまがふ雪の
千載 うつしうへてはるかなる
風雅雜下 何のまもとまりとてはるかなる
拾遺愚傷 雲海のあなたのみしをうらみ
新葉雜下 ながめやる雲の海のあなたより
新古今 ながめやる雲の海のあなたより
続後撰雜中 ながめやる雲の海のあなたより
壬生二首下 雲海のあなたのみしをうらみ
拾玉集三 ながめやる雲の海のあなたより
壬生二首上 ながめやる雲の海のあなたより
同清集上 ながめやる雲の海のあなたより
千載雜下 ながめやる雲の海のあなたより

ゆくもしほの煙たちもの
ながめやる雲の海のあなたより
ながめやる雲の海のあなたより
ながめやる雲の海のあなたより

新古今一　君ゆえや始も終も知らるらん　或本西行
千生二度上　うきよをみつつ涙こぼれぬ
新古今雜中　うらしくてきこえぬ夜ぞ秋をしる　八條院高倉
新和歌下　秋風ふきてもの山のちるはをも　後鳥羽院
新勅撰雜下　いく秋と思ひしらるる秋をもて　後鳥羽院
山家集上　春の形もなほ秋なりうて　後二位為氏
新古今戸数　心ゆえ秋よりをりとしらるる　後二位為氏
後撰雜二　行くすえ秋の夕ぐれ　賢子
風雅雜下　秋をまつ心を春の初よりも　後鳥羽院
同書下　あちきなく秋の夜の月ぞ　後鳥羽院
拾玉集二　秋ぞ月ひけるかぎりの　後鳥羽院
新後撰雜下　ちるはの秋の夕ぐれもなるらん　後鳥羽院
後撰雜上　さてもなほ秋ありうるまつ山の　後鳥羽院
新古今雜中　秋風の音をきくにや山さとを　後鳥羽院
拾玉集三　ちるもしれぬもとの山さとの　後鳥羽院
新後撰雜中　思ひ入らぬ奥もいるらん　後鳥羽院
風雅雜上　君孫の海山くれの夕くれの　後鳥羽院
玉葉雜上　濃ひ入ん後後の秋と秋ひ道　後鳥羽院

拾玉集六　うきよをみつつ涙こぼれぬ　或本西行
後撰雜下　思ひきやかりの山路の月みても　後鳥羽院
拾玉集一　吉野山思ひ入るもひまもなし　後鳥羽院
新後撰古雜　山ちかくもむすぶ秋のうすきぬ　後鳥羽院
風雅雜中　一もとに思ひ入るもそれなこの　後鳥羽院
新後撰古雜　ひまもなほいとも山ぶき山ぶき　後鳥羽院
新古今雜上　山ちかく花ちるかぜのうすぎぬ　後鳥羽院
同清集上　はつかにも秋はきぬとふ秋風や　後鳥羽院
拾玉集四　新古今雜上　秋ぞ秋はくしてむすぶ　後鳥羽院
新拾遺雜　秋の月ふかくうつるのまがきに　後鳥羽院
後撰拾雜　山ぶきそ山のまがきに　後鳥羽院
古今雜下　足引の山のまがきに　後鳥羽院
風雅雜上　雲ふきみちの月ぞ　後鳥羽院
拾玉集四　法乃ゆえ行すぬ命つなぎ　後鳥羽院
後撰雜二　ちるもしれぬ命つなぎ　後鳥羽院
新古雜中　ちるはのなかの秋ぞ　後鳥羽院
玉葉雜四　ぬれぬ袖ぞ思ひ入る　後鳥羽院
古今雜　はるかぜの秋ぞ　後鳥羽院

後西園寺入道　あきぞ後ぞ

栄子内親王　後伏見院宮
栄仁親王　祥雲親王
天台座主法深　大僧正行尊
赤染衛門　後鳥羽院

新古今歌　あまをとこ　うきよをなげくなみだの袖に　行基菩薩
拾玉集六三　あまをとこ　うきよをなげくなみだの袖に　源重之
後拾遺雑一　山のそよ　入あの月はなれるく　うき世中　月のかげ　祥子内親王
新葉雑下　山のそよ　入あの月はなれるく　うき世中　月のかげ　祥子内親王
拾玉集一　年ふれば　うきよもうらやましの月　うきよのなかをとてとてけん　源季広
大和物語　あのいぬ　ぬるらもあれ　うきよのなかをとてとてけん　源季広
玉葉雑五　月みるに　ぬるらもあれ　うきよのなかをとてとてけん　源季広
同後　いつくとも　いつくとも　うきよのなかをとてとてけん　源季広
拾遺雑秋　かりそめの　かりそめの　うきよのなかをとてとてけん　源季広
古今哀傷　紅葉の　紅葉の　うきよのなかをとてとてけん　源季広
新古今哀傷　雲はなれて　雲はなれて　うきよのなかをとてとてけん　源季広
後撰雑下　ちりぬれば　ちりぬれば　うきよのなかをとてとてけん　源季広
後撰雑下　波のよす　波のよす　うきよのなかをとてとてけん　源季広
後撰雑下　郭公　郭公　うきよのなかをとてとてけん　源季広
新古今三　あるかなき　あるかなき　うきよのなかをとてとてけん　源季広
風雅雑下　この一ふし　この一ふし　うきよのなかをとてとてけん　源季広
拾玉集三　きのめとり　きのめとり　うきよのなかをとてとてけん　源季広
壬生二品上　ちりぬれば　ちりぬれば　うきよのなかをとてとてけん　源季広
後拾遺雑中　つくしの　つくしの　うきよのなかをとてとてけん　源季広

拾玉集七　月清集下　後撰雑下　新古今哀傷　後撰雑下　後撰雑下　後撰雑下

後拾遺雜中　孫さもとあひにくしとも思ふ
風雅雜下　辛あまりのせのあれはきよ
新千雜下　あるみれとも金のあり
拾玉集四　そのうの新乃とひ
新勅雜二　あるきれはそあれとうち
明石
後拾雜中　むつとをうちあをんもれ
拾遺恋五　程やうぬこうろうや出さ
後千雜下　りかるはきはの
拾遺恋五　いめとのこひ
後千雜下　ふくいろ八月
拾玉集七　川みをのうつ
新続雜下　さもこそ
拾遺恋五　久あらの
早歌　ちはの
新続拾雜　和四
新拾恋四　あるこ
新古羇旅　かきの
壬生二荒下　命ふ

うきよのあをいはきそ
うきせのあををとそ
うきせのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ
うきよのあををとそ

同志一　源義氏卿
新後拾二　後白河院御
新後古今二　後鳥羽院御
新葉志一　後人御
後撰雜四　藤原為家
新後撰雜四　平忠盛卿
新千雜中　藤原定家
拾遺志雜中　藤原為忠
拾遺古今二　藤原為家
拾遺雜上　藤原為家
後拾雜上　藤原為家
新後拾二　藤原為家
古今雜下　藤原為家

同志一　源義氏卿
新後拾二　後白河院御
新後古今二　後鳥羽院御
新葉志一　後人御
後撰雜四　藤原為家
新後撰雜四　平忠盛卿
新千雜中　藤原定家
拾遺志雜中　藤原為忠
拾遺古今二　藤原為家
後拾雜上　藤原為家
新後拾二　藤原為家
古今雜下　藤原為家

同志一　源義氏卿
新後拾二　後白河院御
新後古今二　後鳥羽院御
新葉志一　後人御
後撰雜四　藤原為家
新後撰雜四　平忠盛卿
新千雜中　藤原定家
拾遺志雜中　藤原為忠
拾遺古今二　藤原為家
後拾雜上　藤原為家
新後拾二　藤原為家
古今雜下　藤原為家

同志一　源義氏卿
新後拾二　後白河院御
新後古今二　後鳥羽院御
新葉志一　後人御
後撰雜四　藤原為家
新後撰雜四　平忠盛卿
新千雜中　藤原定家
拾遺志雜中　藤原為忠
拾遺古今二　藤原為家
後拾雜上　藤原為家
新後拾二　藤原為家
古今雜下　藤原為家

後撰拾遺
新古今雜中
九重にみちのくの行まちかねん
古今雜下
今宵のあはれいつかは行の月
新後拾遺雜下
うれ行月の雲にかくれぬ世もあり
後撰拾遺
袖ぬれてうきもうれしみちのくの
後拾遺四
長行のうれ野ぶりもまつ
新後撰雜中
里つきぬ行月のそこの雲
新葉雜下
つくそもぬれてやまん世中
後撰
都をいでひとり山をいつるかな
新古雜下
末はかはるまもなく人をなげ
後拾遺
人をうつる舟はまもなくも
新後撰雜中
秋のすゑ
古今雜下
月の雲にかくれぬ
後拾遺雜
月の雲にかくれぬ
後拾遺雜
拾遺雜
新古雜中
たちもとまらぬ
新後撰雜中
大和物語
雜法
九重にみちのくの行まちかねん
古今雜下
今宵のあはれいつかは行の月
新後拾遺雜下
うれ行月の雲にかくれぬ世もあり
後撰拾遺
袖ぬれてうきもうれしみちのくの
後拾遺四
長行のうれ野ぶりもまつ
新後撰雜中
里つきぬ行月のそこの雲
新葉雜下
つくそもぬれてやまん世中
後撰
都をいでひとり山をいつるかな
新古雜下
末はかはるまもなく人をなげ
後拾遺
人をうつる舟はまもなくも
新後撰雜中
秋のすゑ
古今雜下
月の雲にかくれぬ
後拾遺雜
月の雲にかくれぬ
後拾遺雜
拾遺雜
新古雜中
たちもとまらぬ
新後撰雜中
大和物語

古今雜下
むすぶ葉雜一
新後撰雜下
むすぶ葉雜
新後撰雜中
新後拾遺
玉葉
壬生二条上
後撰
後拾遺四
後撰
後拾遺一
後撰
新後撰春
後撰
後拾遺
後撰
古今雜下
むすぶ葉雜一
新後撰雜下
むすぶ葉雜
新後撰雜中
新後拾遺
玉葉
壬生二条上
後撰
後拾遺四
後撰
後拾遺一
後撰
新後撰春
後撰
後拾遺
後撰

新後撰秋上　後白河院御歌
新後撰春下　新古今秋上
新古今秋上　新後撰秋下
風雅雜上　新後拾雑中
新後拾雑上　新古今恋二
新後拾雑下　新古今恋四
新後撰冬　新後撰恋四
新後拾雑下　新後撰恋三
新後拾雑上　新後撰恋四
新後撰恋一　新後撰恋四
新後撰恋一　新後撰恋四
新後撰恋一

後拾遺　今日のこころかけてまし　後撰
玉葉雑上　ひさしかりしかはるとも　式部卿宮
拾玉集一　いつしかのくもまもるつきのこころ　うきふかくなるかはるとも
後拾雑下　ながらへぬるかはるとも　拾中納言
拾玉集一　ながらへぬるかはるとも　うきふかくなるかはるとも
新葉雑上　なほかはるとも　うきふかくなるかはるとも
大和物語　ながらへぬるかはるとも　うきふかくなるかはるとも
月清集上　てるつきのかはるとも　うきふかくなるかはるとも
新後拾遺　いつしかのくもまもるつきのこころ　うきふかくなるかはるとも
同雑中　ながらへぬるかはるとも　うきふかくなるかはるとも
新千載　西の海にかたるつきのこころ　うきふかくなるかはるとも
拾玉集四　嵐ふく高のまつのこころ　うきふかくなるかはるとも
玉葉雑一　三笠山ながらへぬるかはるとも　うきふかくなるかはるとも
拾玉集六　君をのみとりつかはるかはるとも　うきふかくなるかはるとも
新後拾遺　たにすみれ花のこころをもとめぬる　うきふかくなるかはるとも
新後拾雑中　つまもとりこもりぬるかはるとも　うきふかくなるかはるとも
拾玉集六　ながらへぬるかはるとも　うきふかくなるかはるとも
玉葉雑一　何とかはるとも　うきふかくなるかはるとも

新後拾遺　ひさしくよかはるとも　うきふかくなるかはるとも
後拾雑下　ながらへぬるかはるとも　うきふかくなるかはるとも
拾遺愚草　ながらへぬるかはるとも　うきふかくなるかはるとも
同上　つきもむすぶの花ちるかはるとも　うきふかくなるかはるとも
後拾遺　ながらへぬるかはるとも　うきふかくなるかはるとも
若草集　世をうらやまぬかはるとも　うきふかくなるかはるとも
後拾雑中　あちきなかはるとも　うきふかくなるかはるとも
拾玉集六　いとかなかはるとも　うきふかくなるかはるとも
新後拾遺　今はかはるとも　うきふかくなるかはるとも
新後拾遺　ながらへぬるかはるとも　うきふかくなるかはるとも
同雑上　ながらへぬるかはるとも　うきふかくなるかはるとも
新後拾雑中　みるかはるとも　うきふかくなるかはるとも
同雑三　まつのかはるとも　うきふかくなるかはるとも
新千載雑上　ながらへぬるかはるとも　うきふかくなるかはるとも
後古今　ながらへぬるかはるとも　うきふかくなるかはるとも
新後拾遺　ながらへぬるかはるとも　うきふかくなるかはるとも
後拾雑中　ながらへぬるかはるとも　うきふかくなるかはるとも

新後撰　ながらへぬるかはるとも　うきふかくなるかはるとも
後撰拾雑下　ながらへぬるかはるとも　うきふかくなるかはるとも
拾遺愚草　ながらへぬるかはるとも　うきふかくなるかはるとも
同上　つきもむすぶの花ちるかはるとも　うきふかくなるかはるとも
後拾遺　ながらへぬるかはるとも　うきふかくなるかはるとも
若草集　世をうらやまぬかはるとも　うきふかくなるかはるとも
後拾雑中　あちきなかはるとも　うきふかくなるかはるとも
拾玉集六　いとかなかはるとも　うきふかくなるかはるとも
新後拾遺　今はかはるとも　うきふかくなるかはるとも
新後拾遺　ながらへぬるかはるとも　うきふかくなるかはるとも
同雑三　まつのかはるとも　うきふかくなるかはるとも
新千載雑上　ながらへぬるかはるとも　うきふかくなるかはるとも
後古今　ながらへぬるかはるとも　うきふかくなるかはるとも
新後拾遺　ながらへぬるかはるとも　うきふかくなるかはるとも
後拾雑中　ながらへぬるかはるとも　うきふかくなるかはるとも

新後撰　ながらへぬるかはるとも　うきふかくなるかはるとも
後撰拾雑下　ながらへぬるかはるとも　うきふかくなるかはるとも
拾遺愚草　ながらへぬるかはるとも　うきふかくなるかはるとも
同上　つきもむすぶの花ちるかはるとも　うきふかくなるかはるとも
後拾遺　ながらへぬるかはるとも　うきふかくなるかはるとも
若草集　世をうらやまぬかはるとも　うきふかくなるかはるとも
後拾雑中　あちきなかはるとも　うきふかくなるかはるとも
拾玉集六　いとかなかはるとも　うきふかくなるかはるとも
新後拾遺　今はかはるとも　うきふかくなるかはるとも
新後拾遺　ながらへぬるかはるとも　うきふかくなるかはるとも
同雑三　まつのかはるとも　うきふかくなるかはるとも
新千載雑上　ながらへぬるかはるとも　うきふかくなるかはるとも
後古今　ながらへぬるかはるとも　うきふかくなるかはるとも
新後拾遺　ながらへぬるかはるとも　うきふかくなるかはるとも
後拾雑中　ながらへぬるかはるとも　うきふかくなるかはるとも

新後撰　ながらへぬるかはるとも　うきふかくなるかはるとも
後撰拾雑下　ながらへぬるかはるとも　うきふかくなるかはるとも
拾遺愚草　ながらへぬるかはるとも　うきふかくなるかはるとも
同上　つきもむすぶの花ちるかはるとも　うきふかくなるかはるとも
後拾遺　ながらへぬるかはるとも　うきふかくなるかはるとも
若草集　世をうらやまぬかはるとも　うきふかくなるかはるとも
後拾雑中　あちきなかはるとも　うきふかくなるかはるとも
拾玉集六　いとかなかはるとも　うきふかくなるかはるとも
新後拾遺　今はかはるとも　うきふかくなるかはるとも
新後拾遺　ながらへぬるかはるとも　うきふかくなるかはるとも
同雑三　まつのかはるとも　うきふかくなるかはるとも
新千載雑上　ながらへぬるかはるとも　うきふかくなるかはるとも
後古今　ながらへぬるかはるとも　うきふかくなるかはるとも
新後拾遺　ながらへぬるかはるとも　うきふかくなるかはるとも
後拾雑中　ながらへぬるかはるとも　うきふかくなるかはるとも

後拾遺雜中

長秋詠藻

橘俊

後撰雜三

新後拾一

拾玉集一

同三

後千載上

壬生三寶

新千載中

新千載下

拾玉集一

拾玉集一

新後拾二

後千載上

後千載

藤三位親氏

中臣祓

平忠盛

源俊頼

藤原定家

藤原為經

源俊頼

藤原定家

源俊頼

藤原定家

源俊頼

藤原定家

玉葉雑四　打ひさしかみのもりのあさぢはら　あや中納言定家
続古今上　はるのあさぢはらのかすみ　あや紙三位雅経
続拾遺雑上　たちかくしてもいまはかすみぬ　小町
続撰集雑　ちとせのあきのあさぢはら　豊後内侍
玉葉雑一　ちとせまていまはのこりのあさぢはら　うきみのもとにはるのかすみ
拾玉集一　ちとせまていまはのこりのあさぢはら　うきみのもとにはるのかすみ
山家集下　こがらしのあさぢはらのあさぢはら　うきみのもとにはるのかすみ
新千載二　思ふとはなきさはのあさぢはら　うきみのもとにはるのかすみ
壬生二品下　こがらしのあさぢはらのあさぢはら　うきみのもとにはるのかすみ
新続古今四　あさぢはらのあさぢはらのあさぢはら　うきみのもとにはるのかすみ
続後拾遺四　人をとはぬ恨しのあさぢはら　うきみのもとにはるのかすみ
風雅四　宮ぬきの人のこのあさぢはら　うきみのもとにはるのかすみ
新葉四三　さりともと思ふあさぢはら　うきみのもとにはるのかすみ
風雅四三　あさぢはらのあさぢはらのあさぢはら　うきみのもとにはるのかすみ
新千載四　酒新もかよひしあさぢはら　うきみのもとにはるのかすみ
新拾遺二　あさぢはらのあさぢはらのあさぢはら　うきみのもとにはるのかすみ
新古今四　あさぢはらのあさぢはらのあさぢはら　うきみのもとにはるのかすみ
新葉四三　あさぢはらのあさぢはらのあさぢはら　うきみのもとにはるのかすみ

須磨四上　こがらしのあさぢはらのあさぢはら　うきみのもとにはるのかすみ
新勅撰四　たちかくしてもいまはかすみぬ　うきみのもとにはるのかすみ
大和物語　つもるかなとおもふこころのあさぢはら　うきみのもとにはるのかすみ
続古今雑下　思ふこころのあさぢはらのあさぢはら　うきみのもとにはるのかすみ
続拾遺雑二　うらみてそうつるこころのあさぢはら　うきみのもとにはるのかすみ
玉葉雑四　きみとうつるこころのあさぢはら　うきみのもとにはるのかすみ
新勅撰四　あさぢはらのあさぢはらのあさぢはら　うきみのもとにはるのかすみ
風雅四三　をしへしこころのあさぢはら　うきみのもとにはるのかすみ
玉葉四　ながりしもつきのあさぢはら　うきみのもとにはるのかすみ
拾遺夏外上　いとはるきあさぢはらのあさぢはら　うきみのもとにはるのかすみ
続後拾遺一　うらはいつくもあさぢはらのあさぢはら　うきみのもとにはるのかすみ
新古今雑中　あさぢのはらのあさぢはらのあさぢはら　うきみのもとにはるのかすみ
新拾遺二　人をうらみあさぢはらのあさぢはら　うきみのもとにはるのかすみ
新続古今雑　あさぢはらのあさぢはらのあさぢはら　うきみのもとにはるのかすみ
同　つもるかなおもふこころのあさぢはら　うきみのもとにはるのかすみ
玉葉四　人をいかにとちりぬるあさぢはら　うきみのもとにはるのかすみ
新後拾遺冬　ちとせまてとちりぬるあさぢはら　うきみのもとにはるのかすみ
月清集上　風ふけはいとはるかなるあさぢはら　うきみのもとにはるのかすみ

和歌實隆
在家海恋
後三位行藤
律師朝昭
あさぢ　源言忠良
法名華法
拾遺　以藤
あさぢはら
栄子内親王
知足院入道
永祐卿
民部卿為明
源光心
雅三位為
拾遺集具通

張行輪雜中　みくれ芦のそらなる白雪の　荷茶屋那須
拾遺集六　月は世にすむ人のこころやあらぬ　うき中の宿なる
同　君ゆえ分てこころ乱るるあり　うみを出ることのそなたの
同三　あり明の月の光は白雪の　うみより池の色は白波
俊撰羇旅　天竺も山のたもとの月なれば　うきたつ雲の海よりぞ
張手雜抄　山乃ゝ紙つゝのこゝろ　つゝ山ゝ
新張古抄紙　うゝ君もあらぬやもつゝ　舟ゝ
壬生二本上　あれゝし波ゝ　玉津嶋の
張古抄紙　松乃ゝ　うゝ
後衣二　ありしやゝ　山野の
同四　うゝ　うゝ
俊撰賀　ゝ　荷茶屋
同哀一　ゝ　ゝ
同哀二　ゝ　同
新俊拾雜　ゝ　同
新俊新上　ゝ　同
張俊拾雜　ゝ　同
俊拾遺秋上　ゝ　同

山家集　ゝ　ゝ　ゝ

新古今三　隆房卿
拾遺雜上　かきくもる
新古今一　世をうきものと
同　あさぢふの
後拾遺三　我よのとの
同　たちかへる
玉葉雜一　山乃ゝ
新葉春下　をぢの山
詞花集　ちぢ
菊
拾玉集三　ちぢ
生二上　ぬ
月清集上　
山家集下　
後拾遺四　
拾遺雜上　
新古今四　
後拾遺雜上　
新古今
後拾遺四
月清集下
拾遺夏上
新後拾遺
新古今
後拾遺上
後撰雜上
玉葉秋下
風雅春下
拾遺夏
後拾遺
新後拾遺
新古今上

新古今四　春ごとのうつりかはるみとやまの花の白雲
拾遺集六　春衣ぬるるもわくらはなのうへの露
風雅夏　ほのぼのとあけぬる空の雲間より
玉葉冬　梅ゝ残て月の新しき夜の雪
同　さゆる月冴ゆる光の雪ふかし
拾遺愚草上　ひとしきりあられ降るかと聞ゆるは
玉葉冬　月新しき夜のこゝろ冴ゆらん
拾玉集二　ゆくすゑ遠き雲の上
拾遺遠夏　ひとへ織る蜘のこゝろも夏ぶかし　藤原信実